

令和1年7月25日

症例報告

1 穴の刺鍼で改善した腰痛

青森県鍼灸師会 梅沢 拓

本症例は、工作中に椎間関節部付近に痛みが出て、鈍痛が残ったが、3回3日間の鍼灸施術で症状が改善した椎間関節性腰痛と思われる症例である。

症 例：34歳 男性 装蹄師

初 診：平成29年1月27日

主 訴：左腰の重い感じ（図1）

現病歴：仕事を始めた、約10年前から、立っている時や前屈みから体を戻す時に、腰に重い様な感じが出始めた。病院の受診や他の治療はしていない。

今回の症状は、平成28年10月末に、馬の蹄を整える為に、脚を持ち上げた時に左L5椎間関節付近に強い痛みが出た。病院などの受診はなく、普段通りにしていると、約1週間で強い痛みは気にならなくなったが、その後は、左L5椎間関節部付近に重い感じの痛みが残っている。

来院時は、立っている時や前屈みから体を戻す時、お腹を前に突き出すような動作で、左L5椎間関節部付近に重い感じの痛みが出る。座っている時や仰向けでいる時は重い感じはない。自発痛、夜間痛なし。朝の痛み、起き上がり時、靴下の着脱痛はない。仕事は、馬の装蹄をしており、蹄を整える時や蹄鉄を打つ時など、前屈みなって行う作業が多い。仕事では、約1kgの革製の前掛けをしており、着けている時は、左L5椎間関節部付近に重い感じの痛みがある。スポーツはしていない。アルコールは飲まない。

既往歴：特記すべき事なし

家族歴：特記すべき事なし

診察所見：身長172cm。体重73kg。側弯、前弯は正常。階段変形は認められない。前屈痛は陰性。指床間距離は0cm。側屈痛は左右ともに陰性。指床間距離は左55cm。右53cm。後屈痛は陽性。左下位腰部に疼痛出現。股内旋、外旋テスト、ニュートンテスト、叩打痛は陰性。圧痛は左のL5椎関に認められた。（表1）

診 断：本症例は、後屈痛が陽性であった事、椎間関節部に圧痛が認められた事から椎間関節性腰痛と推測した。

治療・経過：鎮痛と血液循環の改善を目的に鍼灸施術を行った。

治療体位は腹臥位。ステンレス製2寸—5番（60mm—24号）を用い

左のL5椎関に直刺で約4cm刺入し、15分間置鍼をした。抜鍼後に台座灸を用い、1壮施灸した。

生活指導：工作中的の前掛けなどは仕方ありませんが、それ以外では、体を後ろに反る様な動作は、出来るだけ行わない方がいいと思います。

第2回（1月28日 2日目）

仕事をしてきたけど、ほとんど気にならなかった。後屈痛は陽性。椎間関節部の圧痛は軽減。

第3回（1月29日 3日目）

仕事をしてきたけど、特に気にならなかった。後屈痛は陰性。圧痛はほぼ消失。出張で東京に来ていた為、本日で終了とした。

考 察：本症例は、後屈痛が陽性である事、椎間関節部から圧痛が認められた事から、椎間関節性腰痛と推測し鍼灸施術を行った。また、臨床症状、診察所見から類症疾患を除外した。

1 筋・筋膜性腰痛

前屈痛が陰性である。圧痛が椎間関節部以外からは認められない。

2 スプリングバック

前屈痛が陰性である。棘突起間に限局した圧痛が認められない

3 変形性脊椎症

年齢が若く、腰椎の前弯が正常である。

4 姿勢性腰痛

凹円背がなく、持続性の鈍痛ではない。

5 脊椎すべり症

階段変形を認めない。

6 脊椎圧迫骨折

叩打痛が陰性である。

本症例は、仕事上少し重い前掛けをしている為、上半身のバランスを取ろうとして、上体がやや後屈傾向になると考えられる為、椎間関節部に負荷が持続的にかかり発症した、椎間関節性腰痛と考えた。今回は、最長で3日間といった時間的な制限があったが、後屈痛、圧痛ともに改善されている事から、鍼灸施術は概ね妥当であったと思う。

経穴の位置

L5椎関：L5-S1棘突起間の外方約2cm

参考文献

- 1) 問診・診察ハンドブック 出端昭男著 医道の日本社

表1 診察所見

腰 痛 1-29年1月27日

1 頸 臂	⊖ (N) ⊕	7 股内旋	—
2 前 臂	⊕ 増減逆	8 股外旋	—
3 階段変形	⊖ + L		
4 前屈痛	⊖ + 0		
左側屈痛	⊖ + 55		
5 右側屈痛	⊖ + 53		
6 後屈痛	— ⊕		
9 ニュートン	⊖ +		
10 叩打痛	⊖ +		

(医道の日本社)

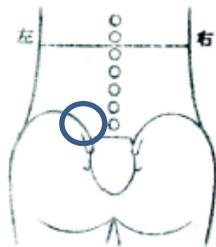


図1 疼痛域